



# インド経済及び市場の最新動向

～インド市場進出に関する検討資料(抄録版)～



SCS Global Holdings, Pte. Ltd.

株式会社ピー・アンド・イー・ディレクションズ

2011年8月

*Strictly Confidential*

## “ポスト・チャイナ”として台頭する、アジアのもう一つの巨大消費市場インド

### ■ 爆発的な成長が見込まれる巨大消費市場

- 現在、総人口12億人を擁し、将来的には中国を追い抜く世界最大規模の国家
- 中間層の増加により、年々購買力が急速に拡大
- そんな中、外資企業に対する小売業への規制緩和が数年後に実現
- 近い将来、インド流通・小売市場の近代化により消費マーケットの爆発的な成長を遂げる可能性が高い

### ■ インドは新興国向け製品の一大開発・生産拠点として位置付け

- 今後の新興国ビジネスの主戦場となるBOP(低所得者層)マーケットを攻めるに当たり、中核となるインド市場を押さえることが今後の成功のカギであると、多くの企業が認識
- インド市場で売れる製品を開発する体制の強化に加え、ほかの新興国やBOP層向け製品開発にも活用する方向で多くの企業がインドに投資
  - 中東・東アフリカ諸国への足がかり、ゲートウェイ
- 既に、自動車産業、製薬産業(特にジェネリック)においてはアジア最大規模の開発・生産拠点として成長しつつある

# 目次



## I. インド市場の現状と今後の成長性

## II. インド進出の魅力と難しさ

i. 生産拠点としてのインド進出

ii. 消費マーケットとしてのインド進出

iii. インドへの進出方法

## III. SCS Global / P&E Directionsのご紹介

# インド概要



## 面積

329万km<sup>2</sup>, (カシミール地域を含む)

## 人口

12億1,019万人 (2011年センサス)  
世界第2位の人口

## 首都

ニューデリー (人口1,675万人)

## 政府

議会民主共和制

## 行政構造

28州からなる連邦制で7つの連邦直轄領を有す(アンダマン、ニコバル諸島、チャンディーガル、ダンドラ・ナガルハベリ、ダマン・ディウ、デリー、ラクシャドウィープ、ボンディチェリ)

## GDP

実質GDP: 1,729十億米ドル 世界9位  
PPP (購買力平価): 4,198十億米ドル 世界6位  
出所2010年世界銀行推計

## 通貨

ルピー (INR)

## 言語

ヒンディー語, その他17の地域言語, 英語

## 宗教

ヒンドゥー教 (80%)、イスラム教 (14%)、キリスト教 (2.4%)、シーク教 (2%)、仏教 (0.7%)、その他 (0.9%)

## 標準時間帯

GMT + 5:30

## 税制

法人税 (実効): 内国会社32.445%、外国会社42.024%

## カントリー リスク

S&P信用格付け: BB+ (長期), B (短期)  
Fitch格付け: BBB- (長期), F3 (短期)

出所: Jetro資料

# インドは高い経済成長が予測される成長市場

## インド: 実質GDP推移・予測

(十億ルピー)



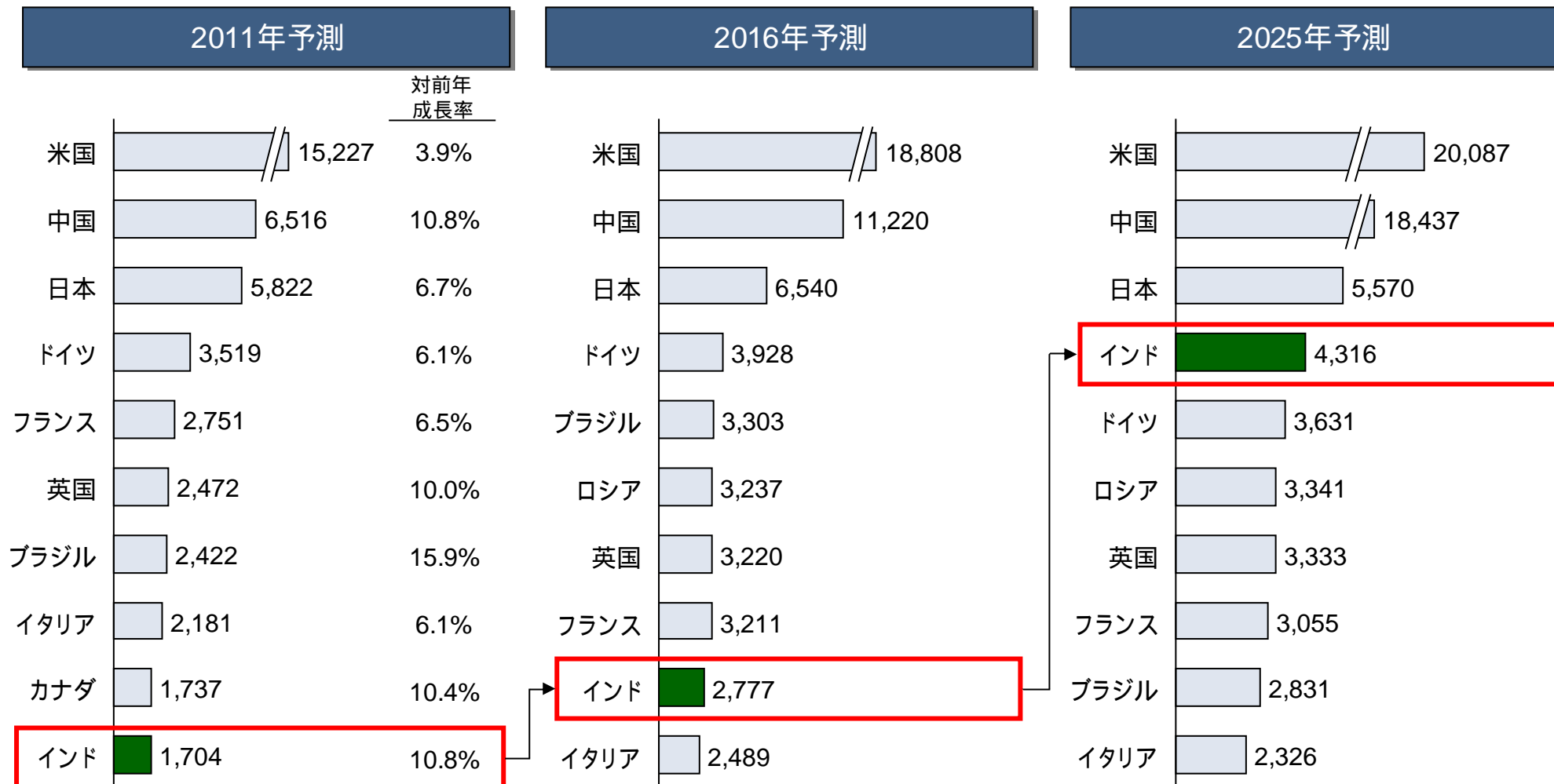
円換算すると、  
約93兆6千億円  
(1ルピー = 1.8円)

1ドル=80円として換算  
出所: IMF's World Economic Outlook Database, April 2011 Edition

# 今後、急速に世界トップクラスの経済大国にまで成長する見通し

## 名目GDPグローバルランキング予測

(十億ドル)



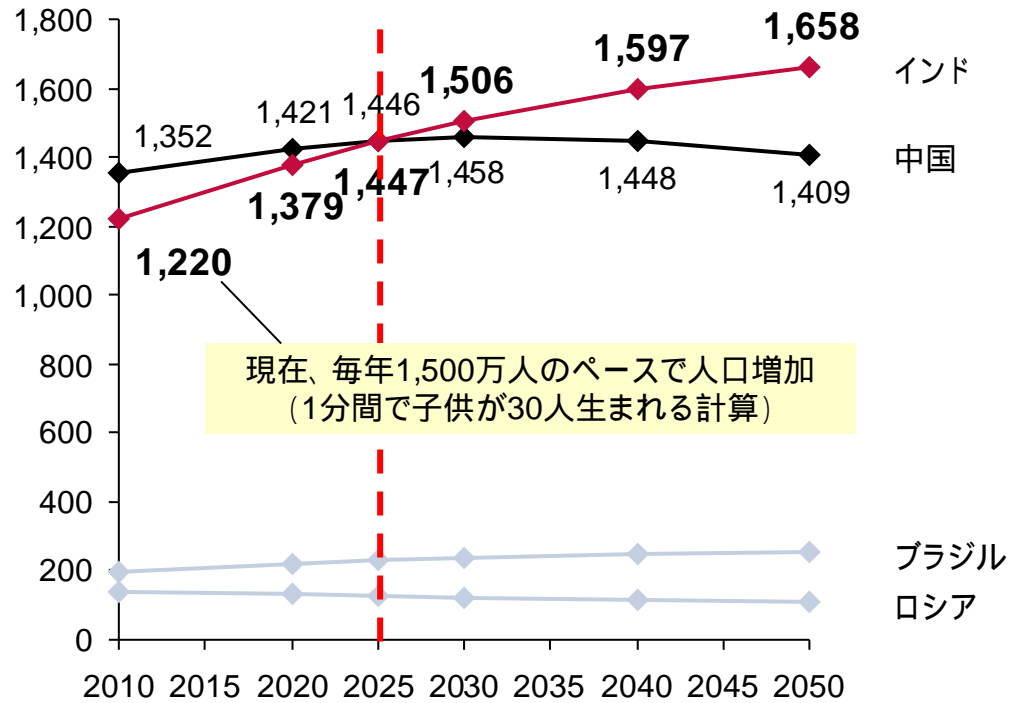
出所: IMF's World Economic Outlook Database, April 2011 Edition,

出所: Goldman Sachs study, Global Economics Paper 2008

# インドの魅力は世界最大規模の消費市場であり、アジアにおける最重要市場の一つ

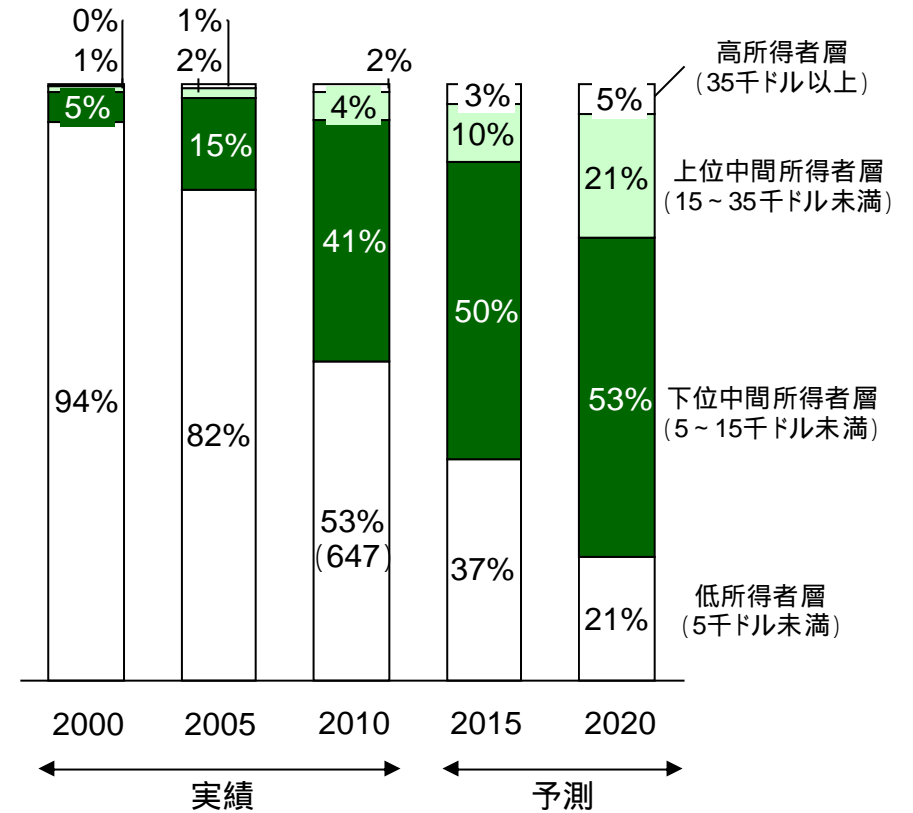
インド: 人口推移予測 (BRICKs)

(百万人)



2025年には中国を抜き、  
人口世界最大の国家となる

インド: 世帯別可処分所得構成

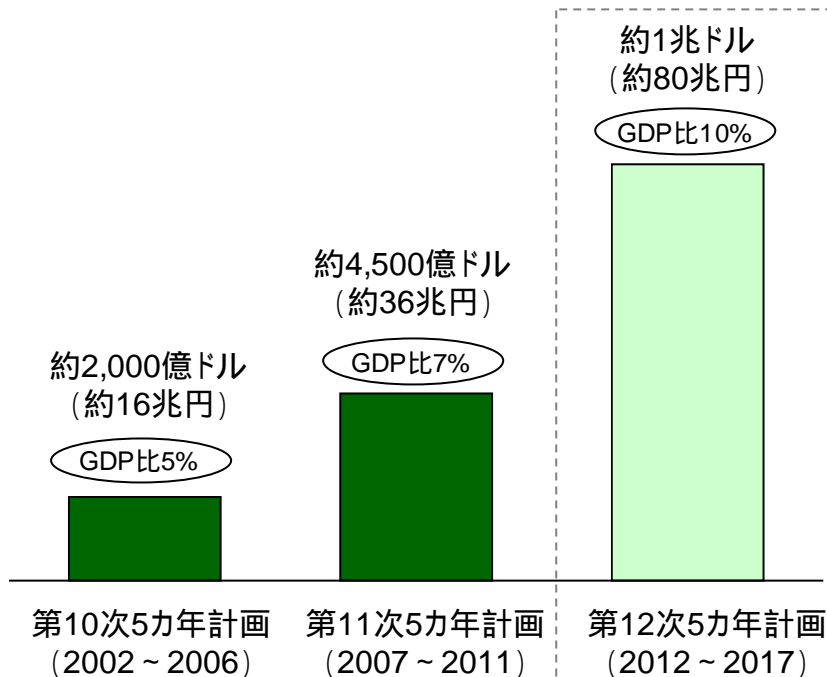


中間所得者層の伸長により、  
消費市場も急成長する可能性

出所: 世界銀行、Euromonitor International 2011

# 政府及び民間による大規模投資が進められ、インフラは急速に整いつつある

## インド政府主導のインフラ投資規模推移



経済活性化を見据え、電力・道路・鉄道・通信等のインフラ整備を急ピッチで推進

1ドル=80円として換算

出所: インド政府計画委員会資料

## 第12次5カ年計画に関する報道記事

**インド、5年で1兆ドル**  
GDPの10% 半分は民間資金

**日本勢 電力・鉄道に重点**

インドは2012～16年度にインフラ整備の各分野で投資増を目指す

1兆ドル=約80兆円

- 通信: 通信部門の成長率を4%に引き上げ
- 道路: インド洋など沿道天然ガス埋蔵地の開拓
- 電力: 北東部や山岳地帯を克服するためのインターネットの農村部への普及
- 鉄道: 10万メガワットへ発電能力を拡張
- 航空: 原子力発電や再生可能エネルギーの活用推進

中核4都市も結ぶ国際空港が交通インフラの中心となる

ニューデリー、ムンバイ、コルカタ、チェンナイ

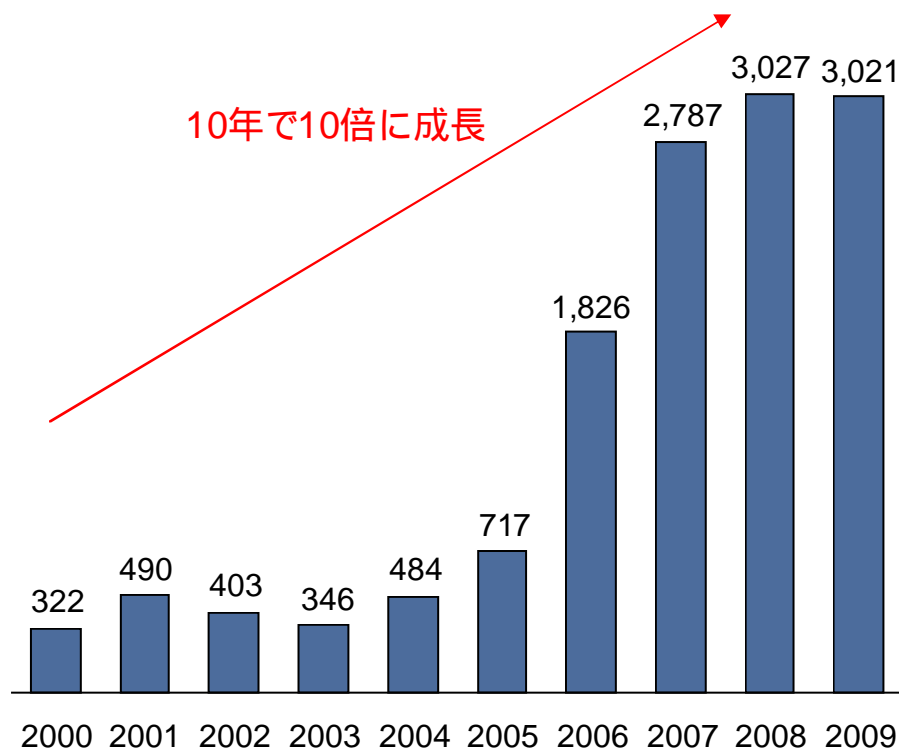
2011/07/05 日本経済新聞 朝刊

2011/07/05 日本経済新聞 朝刊

# 外国からの投資も活発化しており、成長市場として世界からの注目度は高い

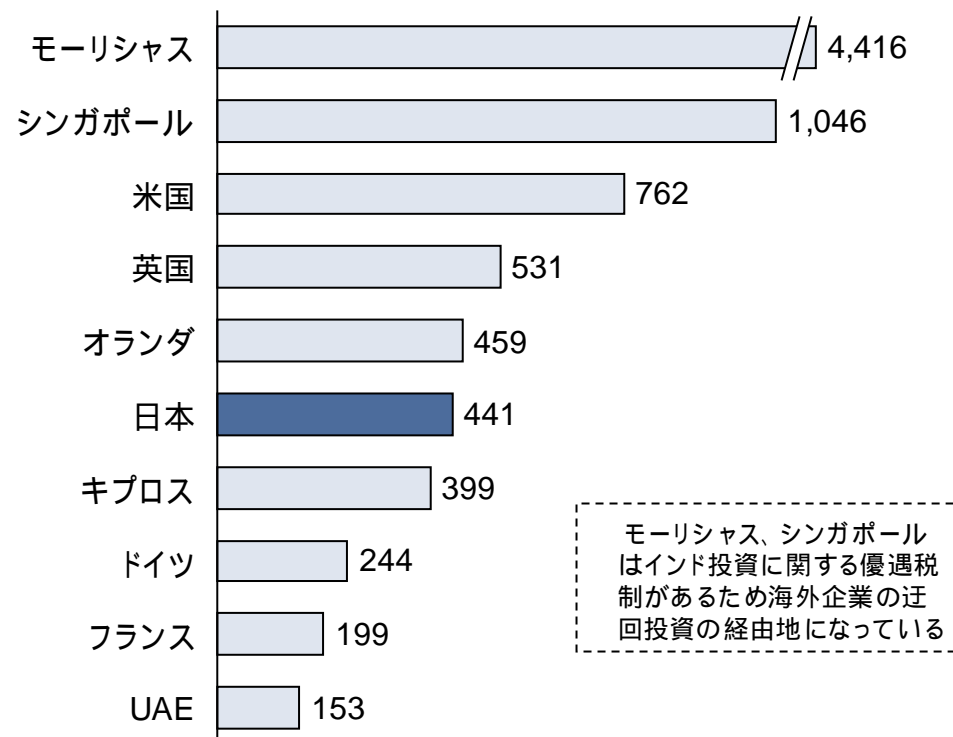
FDI(海外からの直接投資)金額推移

(十億円)



2000年4月～2011年4月までの国別FDI金額

(十億円)



モーリシャス、シンガポールはインド投資に関する優遇税制があるため海外企業の迂回投資の経由地になっている

\*海外の投資先の企業に対する株式の取得、貸付、債券保有、不動産の取得、海外子会社の再投資収益など

1ドル=80円で換算

出所: Ministry of Commerce and Industry (India)

# 目次



I. インド市場の現状と今後の成長性

II. インド進出の魅力と難しさ

i. 生産拠点としてのインド進出

ii. 消費マーケットとしてのインド進出

iii. インドへの進出方法

III. SCS Global / P&E Directionsのご紹介



---

本資料は抄録版です。すべてを記載したフルバージョンをご希望の方は  
当社ホームページの「お問い合わせフォーム」より必要事項をご記入の上、  
お問い合わせください。